

鯿の湖

平成30年度を振り返って

盆梅展から曳山まつりと春の観光シーズン到来です。この1年の活動を振り返りますと、会員の皆さまの「長浜が好きだから」「会をより元気にしよう」の心意気と熱意で着実な前進の足跡が残せました。

8月から曳山博物館様の委託で館内ガイドが始まり、多くのお客様にユネスコ無形文化遺産の長浜まつりと曳山のすばらしさを説明する機会を得たこと。近年入場者数が減少傾向にあった長浜冬の風物詩「盆梅展」館内ガイドを毎日実施し、多くのお客様から「説明が聞け、良かった」との声を頂いております。また、毎日ガイドが入る体制が執れたことは、大きな前進と言えます。

昨年の夏は記録的猛暑が連日伝えられました。その中をきいなパークの維持管理のため「除草・散水など」に延162人の方が出勤頂き、きれいなきいなパークに「きもの大園遊会」

NPO法人
長浜観光ボランティア
ガイド協会
〒526-0059
長浜市元浜町14-12
湖北観光情報センター
☎ 0749-65-0370

発行責任者
馬場 智章
編集責任者
宮垣 秀太郎

理事長 馬場 智章



「アートインながはま」などのお客様をお迎え出来ました。毎年の「びわこ一斉清掃」や「花火大会後の清掃」には、会員の参加者数がいずれも2桁となり、近年減少傾向にあったことに歯止めが掛かりました。

私たちのガイド活動の目的は、「お客様に喜んで戴くと同時に長浜市の発展に寄与する」ことです。そのために、市の観光施策に沿った研鑽を狙いとして、城下町研修としての高岡市研修とその事前勉強会、「近世への扉を開いた羽柴秀吉」勉強会2回、「明治150年長浜の近代化」研修など目的を定めた研修を行いました。

社会情勢の変化で、新入会員が集まり難いことは本会のみのも問題でもありませんが、これを何とかするため「長浜の歴史・文化」に関心を持っておられる方を集める」との発想から「長浜学文化塾」に20名の応募を得、5回の開催を終え何名かの方が入会を考慮して頂いている状況です。

29年度からの継続で念願のホームページ開設、「ながはま総おどり」「長浜市ボランティア交流会」等への初参加や「23の日」の会員交流など、本会を内外に発信する方向に動きつつあります。

これらの成果と共にいくつかの課題もあります。大きなトラブルとなってませんが、「駅前ガイドの空白」が何件かあり、その日のお客様は誰に尋ねられたのでしょうか？

本会はボランティア団体として、お客様に喜んで戴き、地域の方々から評価される団体を目指し着実な前進を続けております。年度末にあたり皆さまのご尽力に感謝申し上げますと共に、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



びわこ一斉清掃



ながはま総おどり

新年度を迎えて

副理事長 木村富久子



豊公園の桜の花もほころんで、ようやく春を感じる頃となりました。

東を仰げば父のような秀峰伊吹、西には母なる琵琶湖に育まれながら、今年度も会員の皆さまのご協力を得て活動の輪を広げていきたいと思っております。

昨年度は、会員の皆さまには、それぞれの事業に対して、ご理解、ご協力いただきまして本当にありがとうございました。

思い起こせば、長浜市や地域との連携を保ちながら、当協会独自の事業を展開してきたような気がいたします。とは言っても私は「三歩下がって師の影を踏まず」のごとく、理事長の後姿を追い続けていただけのような気がします。

今年度も、総務部、事業部共に事業が山積んでいます。当協会の運営が円滑に進みますようよろしく願っています。そして、五月一日から「新元号」も決まります。気持ちを新たにしていっ歩一歩前進して行きたいと思っています。馬場丸の集大成の年度でもあります。どうか、暖かく見守っていただきますようよろしくお願いたします。

来年の今頃は、やり遂げた充実感と、心地よい解放感の中に身をおけますように……

新人養成講座

「文化塾〜長浜学」を開催して

総務部長 宮垣秀太郎

6月に理事長から「新人養成講座を実施してほしい」との発案で総務部・事業部協働事業「新人養成講座」が立ち上がったのです。

講座を実施するための準備作業として、研修内容の検討、講演者の選定や依頼作業、それに並行して広報を実施する方策やポスター・チラシ原案の作成など、実施までに何回も会議を重ね、試行錯誤を繰り返しながらようやく実施の運びとなりました。

今回は本当に時間的余裕もない、一言で言ったら、思い付きで実施した感の事業であり、予算組も予算案もないまま推進するといったやみくものな発進でありました。

なんとか方向性が決まり実施の段階に入ったものの「これでいいのか」「何か取りこぼしはないか」とか「これだけの準備をしていながら参加者がなかったら?」との不安も生じ本当に悩みましたが、それを打ち消しながら開催日までの日程に追われなんとか開始に至りました。

幸い開催してみれば、連続5回の受講者が13人、単独受講者が7人と総計20人の方が「文化塾〜長浜学」講座を受講していただける事となったのです。

後は私達の努力を尽くし、受講していただける方が少しでも楽しんでいただけるようにとの思いで、担当者が心を込めた対応をしたのですが、開いてみれば思いとは裏腹に失敗の連続でした。何せこのような研修会を実施したのは初めての経験ですから仕方ないのかもしれませんが……しかし、担当者や他の会員の方達からの、細かな協力が得られ、私達の失敗を補っていただき大きな失敗に至らずに済み、受講者の方には喜んでいただける結果となりました。このことは本当にありがとうございましたし、感謝をしております。

やはり同じ趣味、同じ趣向の者同士、思いは同じなのでしょう、今回の取り組みで協力いただいた方達のように、相手の気持ちを知って動いていただく意思の疎通は嬉しいですね。

協会の発展のためには今後も多くの事業を開催してゆく必要がある事でしょうが、やはり担当者の熱意と多くの方の協力がなくては達成できません。

今回は本当にありがとうございました。



講師の西原先生



講師の森岡先生

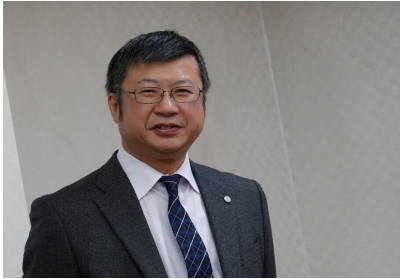
特別研修（平成31年1月15日・29日）

於 長浜城研修室

太田浩司先生が昨年十一月にサンライズ出版社から「近世の扉を開いた羽柴秀吉」を出版されました。副題が「長浜城主としての偉業を読む」と記され、本文「はじめに」の中で「長浜の過去を検証し、数少ない古文書や地上に残った地形や地名などにより、この町がたどった歴史を正確に跡付けようとしたのが本書である」と熱意を語られています。

当ガイド協会も協会員が読んで「ガイド知識の向上を」との見解でしたが、それだけでなく直接話を聞かせて頂いて、より内容を理解するべき機会を設けようと、理事長を始め関係者のご尽力で講演が一月十五日と二十九日の両日に実施されました。当日はいつもの太田節で受講者全員を魅了する内容でした。

（講演内容のいく一部ですが下記一段に掲載させていただきます。）



第一章は浅井攻めの事が書いてあります。

最近私が注目しているのは21頁から書いてある中島城の存在です。秀吉が四年かかって信長の命で攻撃するわけですが最初は横山城を拠点とし、落城の一年前からは虎御前山を拠点とし小谷城を攻撃します。浅井氏側の防衛網として中島城は、非常に重要だと思っています。26頁に地図がありますが、浅井氏が小谷を防衛するラインとして小谷・中島・山本この横のラインが一直線に並びますし、このラインが非常に大事だったと思います。信長が木ノ本・余呉方面を責めに行ったことは信長公記に何度も出てきますが、その時には中島城をまず抑えて浅井勢を追い出してここに拠点を置いて木ノ本・余呉方面に責めて行く形を取ります。中島城は、平地にあるので一時的には信長に取られ占拠されてもすぐ浅井勢が取り返す状況で推移していたと思いますが、最終的には山本山城が陥落して阿閉が降伏してしまったことがこの防衛網が崩れる事になります。中島城が取られても山本山城と小谷城が機能していればすぐに取り返せますが、山本山城が取られてしまうと中島城も保てなくなり、防衛ラインが崩れてしまい織田勢は絶えず北の方（上山田・下山田）に上がり小谷城の後ろからも攻撃することになり小谷城は丸裸状態になってしまふ、この防衛ラインが保たれていれば虎御前山だけ対立していればよかったのですがその意味から中島城の攻防、山本山城の存在は浅井氏の防衛のためには非常に重要なのかなと思っています。

第一章は長浜城築城の事が書いてあります

31頁の後半に書いてありますが天正二年六月六日付けで平方の名主百姓にあてた「今浜普請で人夫を出しなさい」と書いた文書が残っていて、長浜城に寄託されています。六月八日付けで下八木村あてに出された文書も残っていますがこれが戦前までは下八木に伝来していたのです。なぜか売りに出され今は大阪城天守閣の所蔵となっています。もう一つは、平成の中頃に市場に出たものを長浜城が購入したもので、写真で31頁に載っています。七月十六日付けで、唐川・布施・高田の百姓に宛ているものです。最初は近くの平方から次に下八木さらに伊香郡の村々まで動員をしていたことになり、長浜城は領国の湖北三郡の農民の血と汗で出来ているのが解ります。

35頁では、秀吉が長浜城にいつから移ったかの話ですが良く分からないのです。信長公記の天正三年八月十三日の項目に信長が小谷の羽柴筑前守の所に泊ったとの記述があります。と言うことはまだ小谷にいたことになりました。35頁の写真の文書は、おそらく三成が国友鉄砲鍛冶にあてたもので慶長五年七月二十八日付で出された文書です。その中に「天正三年長浜に太閤様御座、候以來」と書いてあります。と言うことは天正三年に長浜に住み始めた事を三成が言っていることになり、これは間違いないだろうとの事から秀吉が住み始めたのは、天正三年の秋から冬にかけて長浜に移ったと考えるのが順当ではないでしょうか。

（一月十五日講演から）

盆梅展&菅山寺

小谷武直

今年で68回目を迎え新春の風物詩として親しまれている「長浜盆梅展」が、今年も色とりどりの盆梅たちが、お客様をお出迎え。

この冬は天候に恵まれ昨年まで3年連続で減少していた入館者数が今年は4万8455人と昨年の約1.2倍になったと新聞にも掲載されていました。

多くの盆梅の中で本館一階の展示に盆梅一鉢と菅原道真公の掛け軸が展示されているコーナーがありました。

梅と言えば菅原道真公を思い浮かべる人も多いと思います。

中でも余呉湖を舞台とした羽衣伝説では天女の生んだ男子が、後の菅原道真とされ、その道真が勉強に励まれたと伝わる菅山寺(余呉町坂口)境内のある近江天満宮には、道真の自作と伝わる像が祀られています。興味のある方は、是非訪れてみて下さい。

こちふかば 匂ひおこせよ梅の花
あるじなしとて 春な忘れそ



長浜曳山祭りの

出番山と外題



長浜曳山まつり
Nagahama Hikiyama Festival

呉服町組 常磐山

「一條大藏譚」

(SANDALWOOD IN THE GARDEN)

神戸町組 孔雀山

「勸進帳」

(KANJINCHOUJI)

伊都町組 翁山

「喜太平記白石噺 新吉原揚屋の場」

(KITAIIKI SHIROHANE)

(SHINYOJIWARAAGEYABA)

瀬田町組 萬歳楼

「鳥辺山心中」

(TORIENAKAYAMA)

協会員の皆様へのお願い

長浜曳山祭りが近づいてきました。長浜の一番華やかなこの時期には、沢山のお客様がお見えになり、その方々に楽しんで頂く為におもてなしガイドを実施します。

ガイド総動員で14日・15日に備える必要があります。皆様のご参加をお願いします。年に一度の曳山祭りのガイドが出来る良い機会です。今年の曳山祭りを盛り上げる為に、ぜひ参加して下さい。皆様ガイドを楽しみましょう!!

事業部長 永田太一

今後のスケジュール

- 四月二日(火) ピアノ力研修(座学)
- 四月六日(土) 曳山交替式(曳山会館)
- 四月六日・七日 ピアノ力体験研修
- 四月十日(水) 曳山祭り事前研修
- 四月十四日(日) 曳山祭りガイド
- 四月十五日(月) //
- 四月二十五日(木) 通常総会

南郷里町こころセンター
十二時〜